

□□ _____ □□

1. お知らせ …1. 2020年の行事日程が決まりました

□□ _____ □□

- ①理事会：4/25（土）13：30～東京・小伝馬町のニッケイビルにて開催
（理事、監事、顧問の方は予定に入れておいてください）
- ②決算監査会：5/1（金）午後～佐藤・渡辺・山崎・下田
- ③第23回文化賞一次選考開始：4月中・下旬～順次選考委員に届きます。
7月初旬までに返送。
- ④2020岐阜全国大会：5/16（土）岐阜・ホテルグランヴェール岐山（岐阜文芸社さん手配）
- ⑤文化賞二次選考会：7/18（土）朝から夕方まで～東京・小伝馬町ニッケイビル
- ⑥文化賞最終選考会：9/2（水）東京・吉祥寺東急REIホテル・午後から
- ⑦第35回自費出版アドバイザー養成講座11/27(金)：東京・小伝馬町のニッケイビル
- ⑧2020日本自費出版フェスティバル：11/28（土）：アルカディア市谷：5F穂高
・自費出版即売会は、穂高前のビルにて行う。 ・懇親会4F 鳳凰
- ⑨第24回文化賞の応募開始：12/1～4/30（今回は、1カ月後ろにずらす）

以上、皆さまご予定くださいます。

□□ _____ □□

2. ニュース …2020岐阜全国大会のセミナー決定と申込受付開始(添付)

□□ _____ □□

2020岐阜全国大会（5/16土）のセミナー2本が決定しました。

■「現役アドバイザーぶっちゃけ部外秘トーク
アドバイザー試験合格のコツから受注率アップの秘訣まで」

スピーカー：山崎領太郎さん（清水工房/揺籃舎）、矢島潤さん（サンライズ出版）、
宮川和久さん（文伸/ぶんしん出版） 進行役：川井信良

年間多数の自費出版を担当している現役アドバイザー3人に、仕事の喜怒哀楽や
商売の秘訣などを本音で語ってもらう、自費出版事業の実態が見えてくる座談会です。
自費出版事業を考えている経営者や、自費出版アドバイザーになろうとしている人には
見逃がせない講座です。

■「ライト出版市場の誕生と広がり ～縮小する既存出版の外側で膨らむ市場～」

講師：藤井建人氏 日本印刷技術協会 研究調査部長 主幹研究員

JAGATの藤井氏が命名した「ライト出版市場」は、コミケのような同人誌市場や

自費出版市場とも違った、その中間の領域の出版市場を指しています。
今、この市場が分野ごとに誕生し広がり続けているそうです。
背景にはネットとは違う魅力を感じ始めた層が増えてきたことや、その出版を支えるデジタル印刷機の出現などがあるようです。
この市場に自費出版業者はどう向き合うべきか、そのヒントが見つかるセミナーです。
(申し込みは添付ご案内を参考に事務局か宮川まで mi y agawa@bun-shin. co. jp)

ホテルグランヴェール岐山 <https://grandvert.com/>
シングル15部屋確保 朝食税サ込み7,100円(早めのご予約を) 駐車場代1泊千円

□□ _____ □□

6. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.26

□□ _____ □□

NPO日本自費出版ネットワーク
事務局 下田眞市

「近況の事務局業務で考えて・実行していること」

第23回日本自費出版文化賞作品応募者対応に追われている状況です。
皆様ご存じのとおり「日本自費出版文化賞は、自費出版された書籍に光を当て、
著者の功績を讃え、且つ自費出版の再評価・活性化を推進する目的」が
あります。

この方針に、基づきNPO日本自費出版ネットワークは日本自費出版文化賞の
主管として実務を22回にわたり、進めてまいりました。

私自身は、2011年11月第15回から事務員として参加して今日に至っています。
最近になり、私自身が応募者の方(お客様)へ感じることは、この応募に対して
大変不安と何を行えば良いのか等御理解出来ずに、ネットワークへ電話又はメール・
更に、直接事務局へ訪ねて来る方もいらっしゃいます。

その時の対応として今までは、応募要領の内容を読み上げるのがほとんどでした。
しかし第23回からは、お客様の迷っている事がらを聴き出すために、自分自身が
「お客様の立場」になって接遇をすることが大事と考え、お客様の疑問点・考えている
ことを聴き出すため、応募要領の説明に止まらず、文化賞応募の動機等を聴いて、
お客様の応募への不安なハードルが下がるように、柔らかい口調で接客を行っています。

今後も、自分なりに事務局業務進めてまいります。
よろしく願います。

□□ _____ □□

☆ 知つとこ 岐阜 ☆ その9

□□ _____ □□

岐阜のご当地ソング

今でこそよく聞く「ご当地ソング」。タイトルや歌詞に都市名・地方名や

各地の風習・文化など、地方色や郷愁を前面に打ち出した楽曲のことです。

この「ご当地ソング」という言葉、いつから始まったのかご存知でしょうか。特定の地域を歌った歌は昔から多くありますが、「ご当地ソング」として売り出したのは、1966年4月に発売された美川憲一の『柳ヶ瀬ブルース』が始まりといわれています。

今ではとても有名な歌ですが、もともとは作詞作曲を手掛けた宇佐英雄氏が、岐阜の歓楽街である柳ヶ瀬で流しをしながら歌っていた楽曲でした。この曲を日本クラウンのディレクターが気に入り、当時歌手として路線変更を迫られていた美川憲一に歌わせたところ、120万枚を超える大ヒットとなりました。

余談ですが、はじめこの曲を聞いた美川憲一は「明るい性格の自分には合わない」とあまり歌いたくなかったそうです。この曲の大ヒットによって、岐阜の柳ヶ瀬は全国的に知られるようになりました。梅宮辰夫主演で『柳ヶ瀬ブルース』は映画化もされています。

岐阜を舞台にした「ご当地ソング」で忘れてはならない曲がもう一つあります。1984年4月に発売された五木ひろしの「長良川艶歌」です。この曲は、第26回日本レコード大賞を受賞した他、TBSのザ・ベストテン『12年間ベストテン第1位』という大記録を作っています。長良橋の鵜飼舟乗り場前には、歌詞を彫った記念碑が建てられています。鵜飼の篝火を見ながらこの歌を口ずさむと、切ない恋の世界にどっぷりと浸ることができます！（笑）

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

★あとかき

今回の会員便りは事務局の下田さんに寄稿いただきました。実は2回のリクエストの末に書いていただきました。お忙しい中ありがとうございました。

でも、事務局のご苦労や心遣いが分かって良かったと思えました。出版した本をより多くの方の見ていただける場にどうやって乗っかったらいいかわからない方はとても多いと思います。

そこに上手く誘導してくださっているのがよく分かりましたし、私たちの役目でもあるな～と再認識いたしました。

福は～内、福は～内！
多くの応募者の皆さんを迎え入れましょう！

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

